

# 全佛通信

一月号  
発行所  
財団法人  
全日本仏教会  
東京都中央区築地  
三の一(本願寺内)  
電話 〇三三三  
〇三三三  
振替 東京三三〇〇  
発行人 阿部寛信  
編集者 伊東隆純  
印刷所 ルンビニ社

## 新年頭の所感

会長 高階 瓊 仙



会長 高階 瓊 仙

新しい年を迎えるたびに、今年こそはなどと意気込んで見ることが、何かと煩わしい。勿々のうちに、月日は流れ去ってしまうのが常である。それにしても今年には仏教界にとってなかなか問題が多いように想われる。この全仏はいろいろの方が集っておられるので、その色分けは多彩だが、「宇宙時代」ということばで表現される近代科学の発達、「繁栄地獄」といわれる高度な資本主義の経済発展、こうした新しい歴史の波は、人類が幸福な生活を希求すれば、それだけ事実上、かえって不幸な道を進むような波紋をなげかけるのであるが、このような現実と直面するわれわれ日本仏教徒が結束して解決すべき任務は、まことに重大なものがあるといわねばならぬ。積

尊の教えである「争いのなき教え——和合僧」に立脚して、すべての人が、おのれを善しとする我執を離れて、お互に尊敬しあい、温かい愛情と信頼のこころの触れ合いによって、念願の仏教界大同団結の理想も達成されるものである。国内の実情にしても、政治の動きや社会不安など全く憂慮にたえぬものがある。特に今年には第七回参院選挙を中心に仏教界には試験の年になるのではないかと思うのである。私も昨年米寿の年を数えた、今年からは、六十四歳になつたつもりで、仏教界の永年の宿願である日本仏教の大団結を実質的に達成するよう、微力を傾注したいと存じておる。海外事情についても、ベトナム問題や核実験など深刻な様相を呈し、平和運動もいろいろな方面からの働きかけもあろうし、渡航自由化により交流も益々旺盛な年になろうが、われわれはあくまで日本仏教の主体性をもって、日本仏教徒の真の姿を顕現すべく努力するときであると想

うておる。東南アジア圏の仏教諸国においても、多端である年であるが、南北仏教の融和点は、日本において見出されると云われている時であるから、益々日本の仏教界に託される使命の重大感をつくづく考えさせられるが、どうか、皆さんもこうした内外の事情にも眼をむけられ、和合の再自覚の上に、安穩の世代が莊嚴されるように、格段の御協力を仰ぐことをお互いに誓い合ってゆきたいと存じます、次第。簡単なが新年の御挨拶といいたします。

## 年頭に思うこと

全仏副会長 羽 溪 了 諦

元日は人生旅路の一里塚と思えば、一休禪師が詠まれたように「芽出たくもあり、芽出たくもなし」という実感が胸打たれざるを得ません。殊にわたしのような生い先きの長くない老人に取っては、たとい現在健康に恵まれていても、なおさらこの歌の意味が痛感されるのであります。

もちろん元日を迎えるということとは確かに一年生きのびたことになりがちではないから、当然慶賀すべきことであります。さりながら、実際において一年生きのびたということは、これを裏から言えば、一年だけ早く人生旅路の終着駅たる墓場に近づいたことにほかならないのであります。そうしてみると、果して元日を手放して芽出たいと祝うてよいか何うか判りません。けだし人びとは凡て一年といわず一日一日人生の旅路を辿りつつ結局墓場に到着するからであります。つまり、わたくしどもが生きつつあるということは即ち死につつあるということにほかならないと言わねばなりません。まい。苦悩憂悲にからまれている人生々活を続けたあげくのはてに死という絶望のどん底に陥っては、人生ほどあじけない惨めなものはないと言わねばなりません。

こういう生死の問題を根本的に解決して、これらの対立を包越し、しかも両者の上に永遠の意義と不滅の価値とを体認せしめるところに、仏教の究極的な狙いがあり、そしてそれが真正な宗教の使命であると思ひます。

年頭にあって、いつもわたくしは蓮如上人が明応二年正月一日に年賀のために参上した勧修寺村のお弟子道徳に対して「道徳はいくつになるぞ、道徳念仏申さるとべし」と仰せられたという史実であります。世間の人びとはこういう年頭の挨拶を奇抜と評するでしょう。しかし正信念仏に参徹されていた蓮如上人に取っては自然的な挨拶であつたに違いありません。けだし、念仏は一切の存在を自らの具体的内容として統括する大智慧のひかりと、そのひかりよりガ然煥發する他の凡てを自らと同じように慈しみ同情する大慈悲のいのちの持主たる仏心の象徴であつて、これをわが心に入れ口に称えることによつて最高不滅の価値たる大智大悲の仏心を領納するからであります。

仏教の実践道は念仏にかぎらず禅でも唱題でもその他の修法でも凡て大智大悲の仏心を証得することが目的であつて、それぞれ個性環境に適應した実践を通じてこの目的が達成されると、人生における煩悩業苦にも尊い聖なる意義が見出されて、これらすべてを包越すると共に、死に臨んでもそれを越えて無量寿の光明を認め、泣いてこの世へ生れ出た代りに心の底からにっこり微笑をもらしてこの世をおさらばする仕合せが恵まれるのであります。

宿縁の催しであらうか、わたくしはこういう仕合せを得させていただいたことを年頭にこころから悦び謝せずにはおられません。



年・頭・所・感

事務総長 麻布 照海

先づ昭和四十年の新年に際し、謹しんで新年の慶賀を申し上げます。私は毎年のように、除夜の鐘をつく最初の一打に、あのことも、このことも、都合よく、また今日まで、よく生き長らえて来たものであると、深く仏恩に感謝すると同時に、今年こそは、去年の出来なかつたことや、またそれ以上の仕事をしようと思ひながら、第二打をついて書いています。然し今年こそはと思ひ日記を書くが、七日も過ぐると、そろそろ、色々の関係の仕事や、本山の御正忌上山の為め、遂に一日延ばしとなって、空白が増えていくのが毎年のことである。私の色々の仕事は、全日本仏教会に、昭和三十八年九月に入局したが、其の他港区保護司副会長、麻布分区分保護司会長、港区青少年問題協議会委員、港区青少年対策地区委員長、補導連絡会長、麻布環境衛生協会長、東京都環境衛生協合理事、保健三法協議会委員、麻布仏教会会長、東京仏教団常務理事、民生委員すい選会委員、港区住居表示委員、学校法人麻布山幼稚園理事長、港区社会福祉協議会理事、麻布社会事業協議会理事、等地域社会の福祉の仕事に關係している。それで度々仏教会の自由人諸氏より、会合や、新しい事業などに、案内される

が、いつもこれ等の事業と、時間的にかち合い、出席することができない。

私は我が宗旨のたてまへである、真俗二諦の宗旨を奉じて、先づ真諦門の上より、毎月四回講師を招き法座を催している。また俗諦門からすれば、地域の社会の福祉と其の浄化に、精進してきた。私は小学校の三年生頃、御内仏の勤行をまかせられていた。毎晩夕食前に、父母兄弟は仏間に集まり、私が導師となつて、正信偈をあげるのが、日課であつた。この仏間の正面に、父が二十五才で善福寺の住職に就任した時に、父の恩師である学匠利井明朗師より、父の生涯の指標として書いた額があつた。それには「徳少なくて高きにいるは、氷山の太陽に向う如し」とあり、父よりいつも、このことについて教へられた。

今日私は全日本仏教会、其の他多くの役職についているが、いつも若輩浅薄の自分を恥じ、あたかも氷山の太陽に向う気持ちでいる。全日本仏教会の職務も、あと半年であるが、魔事なく、相勤められるよう、今後とも御協力方を念じあげ、新年の御挨拶とします。

常務理事 太田 淳昭

大地は回つて、昭和四十年の春を迎えました。地上の人類は、

新しい不安におののいているようであります。日本もまた、内に外に、深刻な危機に当面しているといつても、言い過ぎではないように思われます。

戦後二十年、飛躍的な発展をとげたといわれる日本も、近ごろは「ひずみ」を起してきたといわれます。それは、ただ経済の問題だけではないようであります。教育の問題、道義の問題など、際限がないといつた状態でございます。わたしが、特に申し上げたいことは、今日、宗教軽視の風潮が、国民の心に瀰漫(びまん)しているという点であります。その原因については、いろいろな見解があります。しかし、まず、われわれ仏教者の至らなき、乃至は怠慢が、強く反省されなくてはなりません。

わたたくしは、最近、アメリカの宗教事情を現地調査する機会を得ましたが、信教の自由をスローガンに掲げ、いわゆる新教を奉じて新大陸を開拓したわけでありますが、現在、旧教でも、仏教でも、正しい宗教に対しては、深い理解と尊敬をもって、発展をたずけているありさまには、心から敬服したことでございました。仏教界は、早くから各宗派にわかれ、各々それぞれがために、それぞれ美しくみがき出され、発展もとげたのでありますが、社会的な仕事その他については、仏教界が一体となつて、効果的な活動をしなくてはならぬ面が、非常に多いと思われまふ。いよいよ緊密な連繫をとり合つて、世界の平和と、人類の福祉の増進に貢献したいものであります。この意味から、「宗教

財団法人 全日本仏教会

- 会長 高階 龍仙
副会長 藤井 日静
理事長 中井 竜瑞
理事 羽溪 了諦
理事 英章
顧問 宮本 正尊
大谷 光照

- 理事 清田 寂坦
小林 大巖
宮崎 文輝
中山 理々
山本 杉
安藤 寿雄
蒲池 繁
芝原 郷音
高橋 隆天
塚原 徳応
宮裡 顕秀
宮前 鳳洲
中西 慈海
藤川 博

- 監事 小野清一郎
古川 大航
清水谷恭順
石橋 満山
岸 信宏
椎尾 弁匡
正力松太郎
鶴 昌清
長井 真琴
増田 日遠
山田 謙三
日真

- 評議員 神村 徹雄
上野 澄園
倉内 賢示
水谷 英俊
金子 宗一
竜谷 孝倫
麻布 照海
長野 隆法
岡山 正
藤原 俊
鶴飼 隆玄
伊藤 勝洋
柳原 竜円
源 玄英
杉谷 義周
椎谷 健
木下 亮孝
大隅 亮彰
松居 弘倫
福島 泰信
金剛 義光

新年賀慶

参与

- 赤松 常子
安藤 寛
大谷 贊雄
大村 仁道
北畠 教真
川野 三暁
草葉 隆円
小柳 牧衛
佐々木 泰翁
前田 義雄
渡辺 真海
狩野 獲麟
石川 存静
佐瀬 淳光

- 常務理事 阿部 竜伝
太田 淳昭
上野 頼栄
金子 弁浄
柳生 昌泉
村上 慈海
細川 俊夫
山田 義道
渡辺 秀雄
佐々木 悟山
高辻 恵雄
金 剛正
福田 智徳
曾和 稔界
石川 存静
山本 芳遵
沢 正道
小野塚 潤澄
吉田 秀映
五十嵐 亮俊
誓山 信曉
千葉 葆亮
長島 孝道
物部 義道

「尊重」の風潮の醸成を提言する次第でございます。

常務理事 金剛 秀一

新年おめでとうございます。旧年を見送り、新年を迎えることは、流れる大河のほとりに佇むに似て、流れ去ったさまざまな出来ごとを、もう一度回顧し、新しい時間という未知の世界にそそぐ、新しい希望と将来へのビジョンを創造したいものであります。顧りみますに全日本仏教がセクト化された日本仏教を、国際的なものとして充分なる機能を發揮するために、世界情勢の流れに沿って、呱呱の声を挙げましてから、既に満十年余の苦勞を経過し、ようやく全日本仏教会の確かな姿勢が確立されるに到りましたことは、慶びに耐えないところであります。

しかしながら、その設立の本来の志向性に立つて考えますれば、今後に残された幾多の問題、それに伴う所の困難を覚悟しなければならぬことは、申すまでもありません。

今日では、日本仏教はあまりにも自己の中に閉じ籠りすぎてしまい、各自のセクト的教義観念の安心だけに沈溺してしまつた感があります。しかも、そうした教義の觀念が生活と協力できるという仏教本来の在り方を、もはや無用なものと考え、仏教のもつ時代の精神的指導者としての役割を放棄してしまつたのではないかと危ぶむものであります。

ここに全仏教団は一丸となつて、眞の仏教精神にのっとり、各宗相互の和合を主軸とした僧伽精

神に徹し、全一仏教運動を強力に推進することによって、閉ざされた仏教教団を開かれた教団へと改変せしめたいと存じます。このことによって、仏陀の眞精神を、この混迷せる社会相に顕現し、新しい年に、新しい精神をそそぎたいと念願いたしております。

常務理事 来馬 道断

こんにちの社会はすこぶる混迷状態にあり、特に青少年の問題が、最も重大な関心事となつてゐる。かかる事態を救うものとして、宗教活動が強く要請されておゐり、今こそ全仏教者が手を携えて立ちあがるべきときである。そしてその指導的役割を果たすものは全日仏でなければならぬと思う。

全日仏の寄附行為には、仏陀の和の精神を基調とし、相互の緊密な連絡提携のもとに、全国の各種仏教運動に全一性と計画性をもたせ、眞に時代に即応する活潑な全一仏教運動を展開することを目的とするとうたつてゐる。こんにちこそ眞先きに要請せられるところであり、その意味で全日仏に寄せられる期待は大きいものがある。

しかし将来の全日仏のあり方に就いて、若干の批判が無いでもない。大宗派間においてその最高役員を交替で独占している如きも、その一である。かかる慣例は決して好ましいものではないが、これによつて大宗派の面目を保つて行けると考へるならば、それでもよい。われわれが最も不可解とするところは、全日仏に対し頗る冷淡で、恰も他人事のように対処してゐる宗派があると聞くことであ

る。宗派はそれぞれ自身の事業活動で手一杯である事情はよく解るが、さればとて、全日仏に對して、われんぜずというような態度はどうかと思つた。全日仏は各宗派がその傘下に加盟して設立され、おのおのその局に当る理事者を送り出しているのであるから、いわば自宗派の別動機関でもある筈だからである。

日本に仏教が渡來して千數百年、その間仏教は日本人の生活の支柱であつた。しかるに今や仏教は人々の生活から遊離しようとしてゐる。宗派自体の教化活動はもとより重要であるが、このような時勢においては何より先づ広汎な全一仏教運動こそ望ましいのではないか。そして全日仏における仏教興隆運動は、そのまま各宗派のそれに繋がるものであるから、全日仏強化のために、各加盟団体の一層積極的な親身の協力を切望するものである。

国際委員会 開催

国際専門委員会は十二月十四日午後二時より東京築地サボイにて開催され、次の案件につき審議した。

諮問事項

一、第七回世界仏教徒会議報告について

これについては、過般印度大いより帰国した宮崎文輝団長及西村輝成代表らから詳細に報告された。二、昭和四十年年度国際局事業計画案について

中山局長不在のため阿部局長より大綱につき説明し、柳部長が補足説明をなして了承を得た。

総務専門委員

(副委員長) 小野塚潤澄

(委員) 井上 恵行 木村 智広 神野 真一 源 堯昭 山本 芳連

組織専門委員

(委員長) 栗本 俊道

国際専門委員

(委員長) 久保田正文 (副委員長) 赤松 常子 小谷 徳水

(委員) 石川 存静 今井 大彭 川田 聖見 菅原 惠慶 永田 正義 古坂 明詮 山田 一真 柴田 秀晃 五島 行宣

文化専門委員

(委員長) 松本 徳明 (副委員長) 白山 亮一 (委員) 伊藤 道機

真溪 義貫

- 本霊 禅山 大岡 俊謙 木村 智広 金岳 良孝 北村 性信 川上 快俊 伊藤 越東 古野 東越 波多野 曉浄 森岡 善暁 積 日学 村瀬 良彦 狩野 獲麟 熊野 龍夫 阪口 詠住 禿 詠住 阪口 光広 加納 宗童 川井 春童 南 靈光 朽木 正巳 門原 元康 勝田 光有 菅原 亮然 桜井 栄章 佐藤 行道 小谷 徳水 森 閣龍 川口 東晃 大野 可園 逢坂 惠勝 森 謙円 村上 日宣 矢放 日城 佐伯 快龍 小泉 宗一 清原 良雄 三浦 康正 栗本 俊道 佐藤 覚雄 津山 玄道 松平 智禪 狭川 明俊 都守 泰一 伊久間 隆本 高木 貞隆 松見 得忍 野依 秀市 田中 車一郎 村沢 義二郎 友松 円諦 常光 浩然 村野 宣忠 古屋 道雄 狩野 獲麟 鈴木 敏範 (委員) 石上 慈敬 久保 楚太 小宮 勝憲 推谷 健 関岡 賢一 仲田 順和 能登 有光 船口 暉子 三沢 智雄 森 芳俊 大河内 隆弘 杉本 良智 和泉 得成 北之内 真竜 熊野 竜夫 桜井 文隆 白川 良純 富田 道教 新美 孝道 林 静寛 古屋 道雄 茂田 井教享 山田 貫韶 米山 久

(4頁下段へつづく)

# 私の悲願



議員 眞 北 参議院議員 眞 北 参議院議員

あまりにも矛盾の多い今日の世相を憂い、日本の将来に思いをいたし、衆人の悩みを自らの悩みとし、大衆の喜びを我が喜びとする・宗教的信念を、政治・教育・文化・経済の上に反映していきたいと

存じます。これが仏教徒である私の使命であり、それ故にこそ仏教徒の方々が私を励まして下さっていると感じています。「政治、産業、教育の基調に仏教的信念を」とこれが私の信条であります。そして社会の基調に仏教的信念が流れるところに、福祉国家への道が開けてゆくのであります。

聖徳太子が示された為政の大道を今こそ真剣に考えねばならない時であります。すべての人々が豊かな明るい生活を営むことのできる幸福な社会の顕現に、私の、そしてあなたの力を結集していこうではありませんか。 合 掌

## 全努力を!

参議院議員 大谷 よし雄

おめでとう御座います。

皆さんの御援助のもとに国政に微力を捧げさせて載っていることを感謝すると同時に、今年にはさら

参議院議員 北 嶋 教 眞  
元文教委員長

に一層の御鞭撻を戴いてかねての念願を果すと共に六月の難関を突破したい覚悟であります。念願の一つは十年來私の努力を傾倒してきた農地報償法案を今度の通常国会で可決する事です。政府が提出しなれば議員立法でと考えていましたれば漸く政府が決意を固めた額は千五百億で不満ですが、トニカク一応通さねばなりません。寺院の被買取農地が仏供田であったことを考え一層の手厚い報償措置を計る必要があります。時限立法だった国有境内墓地倍償払下は数年前不肖が時期の延長をさせましたが、宗教法人の幼稚園保育園の問題、かねて皆さまと共に努力してきました墓地問題等残されれば幾多の条件を解決しなければなりません。どうか今後とも十全の御力を賜わりますようお願い申し上げます。

### 第四回 組織専門委員会

第四回組織専門委員会は去る十二月二日一時より松竹会館レストラン、サボイ会議室において十一名の出席委員によって開催された。今回の諮問議案は

- ① 第十二回静岡大会決議事項 対処について、
- ② 第十三回全仏会議次期大会 引受について、

③ 昭和四十年年度組織局事業計画案について、

田組織局長はWFB会議出張中に議長に就き、①の静岡大会決議事項対処についてが上程された。当局より岩本組織部長が大会決議事項の全仏各局での所管状況対処の中間報告を説明、文化局の所管決議事項については小瀬川文化主事が総抗概要を説明し、文化専門委員会に諮問された全日本仏教徒大会採決議案六項目については文化局担当の諸問題は一朝一夕にして、その効果を見ると云う問題とは異り別掲文化専門委員会開催経過の報告にある通り誠に微妙な問題として四〇年一月より実施が初歩に入ったを特に報告された。国際局関係の所管事項では柳国際部長が一件一件につき説明「来年は予算の範囲内に於いて、十分意を尽くし生かして行きたい」と報告、

組織担当部門では若本組織部長が、静岡県仏提案の「今後の仏教徒大会の方法如何」についての議案を中心に今後の方向の如何は社会福祉の充実方法を述べ、結論的には阿部総務局長が「予質の枠内での実践は約束する」との発言があり質疑に入ると森芳俊委員より「寺院の社会事業等の実践化は各宗団の調査と横の連絡をとりつつ具現化を討れ」との意見があり、鈴木敏範委員は「第十二回静岡大会の全仏で対処したものは必ず来年(40年度)三月迄に結果報告を全仏加盟団体にすれば、全仏が対処でき兼ねるような議案を補う事が出来る」との各委員の活潑な

発言がなされ議案は了承された。

②の第十三回次期大会についての議案は岩本組織部長より長野大会引受け迄の概況を述べ、長野大会運営基本原案に入り  
(1)主催の主体は長野県仏教会にするか、または善光寺か、又は共同にするか  
(2)会期は過日行われた十一月十四日の善光寺全山会議の要望により八月下旬になる見込み、  
(3)大会参加動員方の規模。  
(4)会場関係は何部会持つかによって変わってくるが、何会場にするか。  
(5)大会参加費の配分については従前の通り地元のは地元、県外は全仏にするか否か  
(6)昨年の通り本部提案はするか否か、又するとすれば、短かい、ハッキリとしたスローガンで強く打ち出すか否や、  
以上の概略的説明が終ると栗本委員長が「全仏大会の主体は善光寺の両宗をたてて、長野県仏がバックアップするような形をとった方がよいと思う」と語り、  
狩野副委員長は「本部提案については昭和四十年度の三月頃迄の組織専門委員会開催迄に全仏と組織委員との宿題にしよう」との申し合わせがあり、部会編成については従前の通り、部会編成については善光寺写真入りポスターを今から作れ。又福祉部会を持つよう今からその機運を作るよう努力せよ、との委員の申し合せがあり(2)の諮問事項は了承され、(3)の諮問事項は今日の意見を盛り込み昭和四十年の事業計画を進めるようにすることと終了した。

出席委員は

栗本俊道、狩野獲麟、大河内隆弘、関岡賢一、新美孝道、杉本良智、船口暉子、能登有兆、鈴木敏範、森芳俊、古谷道雄の各委員十一名、  
(3頁下段からつづく)

### 事務総局

事務総局長	麻布 照海
組織局長	阿部 竜伝
国際局長	黒田 白純
文化局長	中山 理々
総務部長	岩野 真雄
組織部長	伊東 堅純
国際部長	近藤 隆敬
文化部長	柳 了堅
事務局長	阿部 清瑞
同	福井 顕俊
同	森谷恵智子
同	古宇田亮文
同	鎌田 良昭
同	小瀬川亮見
同	鈴木 美貴
事務総長	鶴岡 隆玄
事務部長	佐藤 孝全
組織部長	水谷 英俊
国際部長	古川 博徳
教化部長	白鳥 幸雄
同	梶原 隆也
同	伊原 一道
書記	八橋 秀雄

常務理事 小林 大蔵

積年のキャリアと情性で、多忙な日々をおくっている私ですが、新年になると、さすがに「いのち」を考へてみたくなる。それは、かくあった「いのち」と共に、かくあるべき「いのち」を含めてである。

かくあった「いのち」は、思い出であり、わが歴史でもある。かくあるべき「いのち」とは、明日のわが「いのち」であり、望みの光を持っているということである。現に、かくあった「いのち」は、どうにもならないが、かくあるべき「いのち」は、これを大切に取らねばならない。そこで、毎年ながら、年頭に心あらたに、あるべき「いのち」について考えもし、決意もするが、いつの間にか同じ路線を走っているようだ。なすべきことだが、旧臘はからずも、三度目の信任を得て、宗務総長の重責を汚すことになった。老骨に鞭うってご奉公申し上げる覚悟であるが、特に教団のかくあるべき「いのち」をじっくり考え具体化して行きたいと思う。大方のご協力を心からお願ひする次第である。

一 仏教こそ万人のもの

参議院議員 山本 杉

WFBを通して深く識りあったビルマのウーチャントン夫人が激動するビルマの国情のなかで軟禁されている夫、ウーチャントン氏に思うようにあえず、気の毒な状態であるときくことは久しい。日本のお茶をのみたこともきいたので、昨年の暮に小さな玉露の缶を

送ったことであるが、この婦人はビルマの仏教婦人会々長として戦中から戦後にかけてそしてまだ今日も活躍を続けているひとである。昭和二十七年に第二回世界仏教徒会議で日本へ始めて来たときに彼の女は自分達仏教婦人はくる日もくる日も大鍋でごはんを煮て、捕虜の兵士に食べさせるのが一つの仕事であったというはなしをして聞いた。その兵士のなかには日本兵もいたのかと聞くと勿論である、自分たちは差別なくした、という。そこで日本の兵士のうちでビルマのひとに対してわるいことをしたのもあったときくがそれを許してくれての上でかときいたら、気の毒なことには彼等は仏教徒でないからあのようなことをしたので仏教徒だったら絶対にあんなことはしなかったといひ切った。私はビルマの仏教と日本の仏教のちがいをこのときほどはっきりと感じたことはなかった。

それから十三年、七回目の仏教徒会議が昨年一九六四年、印度で行われたのであるが、世界の仏教徒が願ひ求めて立ち上った真の仏教の平和が十三年たった今日確立されているであろうか。ビルマの国情をおもいセイロンをおもい、ひろく東南アジア全体に眼をひろげたとき、中共の核実験や国連加盟問題、また台湾、韓国の問題、さてはインドネシア、南ベトナムと、決して東洋の仏教国は平穏ではないのである。今年は一休どんな年なのであろうか。

おもいを国内にいたしたとき『日本の仏教は葬式仏教から観光仏教に、そして今や学者仏教になりつつある』といったある外国人

のことは思い出さずにいられない。日本の仏教はあくまでもひとびとの心を支え、うそをいわない、わるいことをしなさい、他人を愛し、信じていることのできる心を養う教へとして万人のものでなければならぬはずである。このことこそ、仏国土日本を建設する道であり、政治の方向であるはずである。今年こそ、全仏教徒は立上って前進しなければならぬ。

北海道冷害に援助を

北海道冷害の被害状況は、新聞其の他の報道により知られて居る処であります。その後当該地域よりの種々の情報によりますと、想像以上の困窮が、現地の人々の生活を襲って居ると云うことであります。

遅くなりましたが、全仏に於きましても、加盟各宗、各団体に呼びかけて、左記の方法により、慰問品を送付することに致しました。何卒該地同朋の困窮に御同情を寄せられて、御協力下さいませよう御願ひ申上る次第であります。

記

- 一、慰問現金及物資
- 二、期間昭和四十年一月二十日〜同二月二十八日
- 三、委託先東京都中央区築地三ノ一(本願寺内)
- 財団法人全日本仏教会総務局
- 四、配布方法全仏より北海道仏教聯盟宛送付該聯盟にて適宜配布
- (財団法人全日本仏教会)

東京港区芝二丁目五番三号

曹洞宗宗務庁	管 長	高 階 龍 仙
宗務総長	金 剛 秀 一	
参 議	福 山 忍 裳	
参 議	乙 川 映 洲	
庶務部長	宮 前 鳳 輝	
教育部長	宮 崎 文 道	
社会部長	山 田 義 一	
財務部長	金 子 宗 道	
教化部長	竜 谷 孝 倫	
秘書課長	渡 辺 秀 雄	

真宗大谷派

宗務総長	蓑 輪 英 章
参 務	金 關 正 亮
参 務	嶺 藤 亮 正
参 務	龍 山 亨 正
参 務	岡 山 正 亮

浄土真宗本願寺派

総 長	太 田 淳 昭
総 務	神 田 寛 雄
法 式 局 長	永 野 鎮 雄
総 務 局 長	村 上 貫 之
組 織 局 長	芝 原 郷 音
内 務 局 長	水 谷 英 俊
公 室 長	

真言宗智山派

京都市東山区東山七条	電話(56)一五九四
管 長	秋 山 祐 雅
化 務 総 長	上 野 頼 栄
宗 務 部 長	藤 井 龍 心
教 学 部 長	田 中 隆 恵
庶 務 部 長	別 所 弘 因
財 務 部 長	
宗務庁宗務出張所	東京港区芝愛宕町一ノ八
所 長 執 事	電話(41)一〇八一
	小 沢 照 禧

和歌山県高野山

高野山真言宗々務所	総本山金剛峯寺
座 主 管 長	中 井 龍 瑞
執 行 部 長	高 峰 秀 海
宗 務 総 長	柳 原 竜 円
執 行 庶 務 部 長	龜 山 弘 応
教 学 部 長	橋 爪 良 忍
山 林 部 長	東 山 清 全
法 会 部 長	近 藤 本 昇
財 務 部 長	齊 藤 興 隆
奥 之 院 維 那 師 長	上 田 有 澄
事 務 部 次 長	盛 川 光 範

孝道教団本部

統 理 岡 野 正 道
副 統 理 岡 野 貴 美 子
横 浜 市 神 奈 川 区 孝 道 山



リスマス・ハンフレース氏が講師となつて講演があつたが、終つて今日の話題の中心が青年問題に及んでいるので、国際仏教青年会の設立を西村代表から主張し、全員一致の賛成を得て決定となり、午後十一時に閉会した。

なおこの日の午後はダルマパーラ記念日であつた。午後一時にムラガンダクテイ寺院で、ブダガヤのタイ僧伽長老の導師で、三人の印度少年新発智と六人の青年の得度式が行われた。万堂をうめる黄



団長宮崎文輝師

衣の比丘にまじつて、ブーレン会長らが次々と贈物を以て供養をなし、ついで大菩提会ウアリシンハ事務総長の挨拶があり、各国代表が等身大のダルマパーラ師の肖像に花輪をかかげ、終つて約五十名の比丘へ数々の布施供養をなし、盛況裡に会をとぢた。

大会第四日は、午前九時にマハボデイ・インタカレッツヂ(大菩提短期大学)にて左の五委員会が開かれた。即ち、財務委員会、出版宣伝、教育、文化、芸術委員会、教学活動委員会、統一協力委員会、人道奉仕委員会である。この委員会は定款により、バンコックの理事会会で互選された各委員会六名を以て成るもので、それに数名の代表又はオブザーバーがいる程度で毎年の大会のように参加者全体に公開して討議されたものではない。日本代表は教学活動委員会に出席した。参加国は、セイロン、マレ

イシア、タイ、モンゴリア、日本スエーデンである。スエーデン仏教会のM・F・シラングー氏が議長となり会の運営にあつたが、日本は昨年仏教東漸七十年を記念してアメリカに日米文化会議を開催し、日本仏教の紹介につとめ、英文仏教聖典を数千冊印刷配布し、また本年に入つてデンマーク聖書協会の要請により、大蔵経其他の日本仏教各宗仏書を寄贈し、コペンハーゲン大学で厳粛な贈呈式を行ったこと、また東京オリンピックを記念して英文日本仏教紹介書を配布して仏教紹介に努めた旨報告

佐藤首相よりの  
メッセーヂ

本日第七回世界仏教徒会議が、仏陀初転法輪の聖地ベナレス市サルナート(鹿野苑)で開催されるにあたり日本国民を代表して衷心より御祝辞を申述べる機会を得ましたことは、私の最も光榮とするところであります。

この原子核の時代にあつて世界中のあらゆる人々が、心から平和を願つている時に、仏陀の平和の教をよびおこすこの一瞬を迎えましたことは洵に適切と云わねばなりません。

世界各地から参集せる各国仏教徒代表によるこの大会が仏陀の教を適切に世界平和実現のために適切な役割を果すことを念じてやみません。

大会の御成功を祈ります。

一九六四年十一月二十九日

日本国総理大臣  
佐藤 栄作

告した。WFBより仏教普及のための小冊子を発行することが望ましいとの意見が出され、日本側としては鈴木大拙博士を推せんしたが、一切はWFB本部に一任する事になった。なお中山代表より、世界平和実現のため諸宗教と協力しようの議案につき説明したが、モンゴリア代表のみ賛成で、他は抽象的であるとして不賛成に終わった。大体以上でこの委員会は終了した。しかし他の委員会で、日本側十ヶの提案が如何に配属されているかは終に不明であつた事は納得のいかないことであつた。

大会第五日は午後二時より総会が始まり、日本側提案の「世界平和実現のため諸宗教と協力しよう」は、ソ連代表の努力があつて総会で可決決定を見た。

日本側提出議案

- 一、仏教曆を統一しその普及を計ろう。
- 二、王舎城、靈鷲山の仏蹟復興を推進しよう。
- 三、玄奘三蔵千三百年祭典を挙行しよう。
- 四、東南アジア仏教国の繁栄のために、研究委員会を設けよう。
- 五、ウ・チャントン前WFB会長の釈放をビルマ政府に要請しよう。
- 六、南ベトナム仏教徒が今も受けているカトリック教徒からの抗争の悩みを解消しよう。
- 七、印度教徒と仏教徒との融和を計り印度新仏教徒の育成につとめよう。
- 八、原水爆禁止と軍備全廃により世界政府の実現に努力しよう。
- 九、故ネール首相に弔意と感謝の

第十二回全仏静岡大会

御協力を感謝致します

静岡県仏教会

事務所  
静岡市沓谷町二丁目  
蓮永寺中

大阪府仏教会

会長 間野 敬重  
副会長 田伏 祖道  
副会長 井川 定慶  
事務所 大阪市御堂筋  
南御堂内

福岡県仏教会

会長 二十二 鉄 鎧  
常任理事 河東 俊正  
常務主任 芳村 義隆  
事務所 福岡市舞鶴町  
一丁目大長寺内

謹賀新年

京都府仏教会

会長 三崎 良泉  
副会長 信楽 香雲  
理事長 奥博 良城  
副理事長 山家 恵城  
中西 慈海

茨城県仏教会

会長 長南 靈光  
副会長 穴戸 泰爾  
〃 中村 純崇  
〃 秋元 義雄  
〃 中川 祐俊  
事務局長 小原 泰寿

ヤング・イースト社

会長 長井 真琴  
専務理事 村野 宣忠  
左記に移転しました

東京都大田区池上本町八三  
電話七五一〇〇四〇  
振替東京一四〇八八四

意を表そう。  
 十、次期WFB大会を米国で開催しよう。  
 十一、世界平和実現のため世界の諸宗教と提携しよう。  
 の十一議案であったが、これらは大会開会前にパンコックでの理事会に提出審議されたのみで、この中で今大会に於て審議されなかったものがあつたことは非民主的で遺憾であつた。と云わねばならない。

決 議 事 項

決議第一号

- (1) WFBの会費を百ルピーより二百ルピーに値上げすること
- (2) WFB財団を設置し、実行委員会の管理下におき、理事会の決議による計画を実行するために使用する。(財務委員会、委員長ハワイ代表宮原スナオ氏)

決議第二号

- (1) WFBは仏教各国における比丘、比丘尼教育の練成所設立を奨励する
- (2) WFB各国センターは、シンガポールセンターでピツチンフイ女史編纂による学年別の仏教テキストを参照し、学校における児童の仏教々育を考慮すること。

- (3) 官立学校では仏教を教え難いので倫理道德教育の中に仏教原理を導入するよう努力すべきである。即ち寛容、不殺生業報の原理学を正しい行いに不可欠なる教えとして採用すべきである。
- (4) WFBセンターは仏教大学及仏教々育機関の名簿を作り、

教授、学生の訪問及び出版物の交換を奨励すべきである。  
 (出版、宣伝、教育、文化、芸術委員会、委員長シンガポール代表ピツチンフイ女史)

決議第三号  
 (1) WFB本部に於て宗派的偏向なき仏陀の根本信条を説く小冊子を、仏教国、非仏教国の間に普及する事を要請する。此の小冊子は最初は英語で、続いては出来るだけ多くの言語に翻訳されるだろう。その



(写真) 開会式で挨拶する印度大統領

- (2) WFB各国センターは出来るだけ諸宗教との協力と一致に努め、誤解を避け道德的社会的発展と安定と凡ての進歩に貢献する。
- (3) 仏教諸団体は他宗教との協力の場を見出すことを試み、宗教一般の発展のため、特に社会事業の面に於て共同計画を試みねばならない。

決議第四号

- (1) 南北仏教共同理解を深めるためあらゆる努力を傾倒する事
- (2) 世界のあらゆる仏教組織の運動を支持すること
- (3) 共通の仏教シンボル(バッヂ)の指定
- (4) ルンビニー園の復興促進方要請をネパール政府へなすこと
- (5) 原子核兵器を製造しているあらゆる国の政府及国民へ、その製造と使用の禁止を要求する。
- (6) WFBはすべての人が人種、信条、階級に関係なく平等である事を認める。
- (7) WFBは仏教に改宗したため困苦や艱難に陥っている仏教徒に対し、これをとり除くため平和的手段で出来るだけの支援を行う。
- (8) 何時でもまた何処の国でも、またその人種の如何を問わず仏教徒が圧迫、無力化、差別待遇、搾取等で苦しんでいるときはWFBは直接その国の政府に訴えるか使節を派遣するか又は国連の力によって、これら苦難にあえぐ仏教徒に対し宗教自由の立場より同情と安全を与える。(統一協力委員会、委員長インド・トリ

東京都豊島区巢鴨  
高岩寺

来馬道断

栗本俊道

東京都大塚西信寺

電話九四一局〇六二八番

日光山輪王寺門跡

菅原栄海

大本山川崎大師  
平間寺

貫首高橋隆天

大正大学名誉教授  
喜多院

塩入亮忠

輪王寺門跡  
寛永寺住職

大照晃道

高野山東京別院

主監山本芳遵

謹賀新年

昭和四十年元旦  
奈良県斑鳩町

中宮寺門跡

東京都港区芝二本榎2の15

プラ代表アーリヤミトラ師)  
決議第五号

(1) 各国WFBセンターに経済的社会的分野の研究委員会を作り、各国仏教徒の繁栄と社会福祉を高めよう。その研究会の成果は逐一WFB本部へ報告することとする。(日本センター提案)

(2) 第七回WFB大会が全面的完全軍備撤廃が人類の幸福にあって世界的に必要な事を考えて国際連合が軍備競争を中止させる緊急且つ必要な行動をとる事を要請する事を決議する。(モンゴリアセンター提案)

(3) 本大会は仏教々説より考えて凡ての国に對し如何なる領土的、国境的紛争を解決するにも平和的話し合いを用い、決して暴力に訴えることなき事を要請する。(モンゴリアセンター提案)

(4) 本大会は僧伽の持つ社会の指導力を認めて、社会人の組織団体と共に僧伽の主導の下に行われる積極的且つ建設的な社会奉仕事業に對し支援を与えるよう要請する。(タイセンター提案)

(5) 本大会はわがWFBの主たる目的の一つに人道的奉仕を高めることがある事を考えて、凡てのセンターに對し、何処の国に起つた如何なる災害に對しても出来るだけの救援をなすよう要請する。(南ベトナムセンター提案)

大会第六日(最終日)は午後二時より総会(閉会)があり、WFB会長選挙は再びタイ国ブーン・

ピスマイ・デイスクル妃殿下と決定した。なお副会長は十二名で次の各国センター代表であった。

- 1 ビルマ ウ・テイテイラ師
- 2 日本 高階龍仙禪師
- 3 蒙古 ルヴサン氏
- 4 セイロン グナワルデネ氏
- 5 英国 クリスマス・ハンフレーズ博士
- 6 ドイツ アスター氏
- 7 ハワイ ミヤバラスサオ氏
- 8 インド ヴアリシンハ博士
- 9 ラオス ノラシン宗教大臣
- 10 シンガ ポツチンフイ女史
- 11 ボール タイラキクオ氏
- 12 ソ連 デイリコフ氏

ついでWFB財団寄付申込み応募があり、日本としては言干ルビを申込んだ。其後各国からWFBに贈物が贈呈され、日本側からは金欄のテーブルセンターを贈り感謝され、午後五時頃閉会となった。

次期大会開催国の問題

なお日本側提出議案中、次期世界仏教徒会議を米国で開催しようについては、米国代表ミヤバラ氏より、共産圏諸国が米国入国に際して困難であり、それらの国々不参加での開催は「世界大会」と云う名目にあてはまらないの理由をあげ、第八回大会の米国開催についての議案は、第七回大会理事會提出以前にすでに却下となり、理事会側では日本で次期大会開催を希望したが、日本側としては即答が不可能のため、後日回答することを得た。また「次期WFB本部を日本に

移動させよう」については、現タイ本部の任期が一九六七年十二月(昭和四十二年)迄あるので、それまでタイにおくことに決定し、それ以後は日本に置くよう理事会側の意見であったがこれも即答をさけ、後日改めて回答することに決まり一応の了承を得た。

タイ国理事会における審議  
なお前述のように、日本側提出議案の中、大会で通過したものは三議案にすぎないのであるが、その外の九議案は、タイ国における理事会に提出され、次のように審議された。

即ち、①仏教層の統一普及を計ろう。(これら統一は今では不可能の故、仏教層が存在することを世界にPRして仏教相互が用いたらどうか) ②王舎城、靈鷲山等の仏蹟復興……(現在印度政府が着手しつつあるのでその促進方を同政府に要請したらどうか) ③玄奘三蔵千三百年祭を……(理事会では特に関心を示さず、ただ總會当日会場にて玄奘三蔵肖像画と日本側提案事項の刷物を事務局の承認を得て全員に配布した) ④ウ・チャントン前WFB会長の釈放を……(これは内政干渉になるから家族か本人に見舞状を出す程度にしたらどうか) ⑤南ベトナム仏教徒が今もなお受けているカトリック教徒からの……(結構な議題であるが政治性を含んでいるので会議には提出しないことに決定) ⑥印度教徒と仏教徒との融和を計り……(大会にヒンズー教徒を招待しておらず一方的に仏教徒側で討議しても仕方ないとして提案する事を中止) ⑦故ネー

ル首相に弔意と感謝の……(賛意

四天王寺学園

吉田 秀映

静岡県仏教会

会長 松村 寿顕

静岡市沓谷 蓮永寺

参議院議員

北 畠 教 真

参議院議員

大 谷 よし雄

東京都千代田区永田町一の一  
参議院 会館

東京都議會議員

大 村 仁 道

東京都練馬区下石神井二ノ二  
電話(九九六)〇〇一五番

全仏副会長

羽 溪 了 諦

財団法人

日本仏教鑽仰會

理事長 中山 理々

千代田区神田鎌倉町七番地  
電話 四八二四八番

を得られず、大会における黙禱をささげることにも不賛成に終る)  
 ⑧原水爆禁止と軍備全廃により、世界政府実現に……(核実験禁止と云うより核兵器製造禁止にしたらどうかの意見があり、大会によって過決定したが「世界政府」については討議されずに終った) ⑨東



理事長 黒田白純 事白

南アジア仏教国繁栄のために研究委員会を……(これは本会議に上提され、「東南アジア」の文字を消し、「仏教国全体」と一部修正して通過決定した。)

以上が第七回世界仏教徒会議のもようであるが、本会議において終始理事会の運営方法に不明朗なところが見うけられ、日本側代表委員に何らの相談もかけずに、一部の委員により一方的に会議が運営されたことは、その理由のいかんを問わず甚だ遺憾とすべきであり、過去六回の大会に見られない大きな汚点を残したと云わなければならない。(第七回世界仏教徒会議参加日本仏教代表団々長宮崎文輝)

もり上った

ダルマパーラ 百年祭典

大会前日の十一月廿八日午後二時より、ムラガンダクテイビハラ(初転法輪寺)より、同寺住職が奉持する仏舎利を先頭に、楽隊と数百名に上る大菩提高校、小学生及び各国より参加した仏教徒がサークルナート市内を行列行進をした。日本代表中山師と印度大菩提

副会長ラム・ソフト老は巨象にまたがり同じ行列に加わり、市内は仏旗、アーチがかざられ、お祭り気分は最高潮に達した。  
 午後三時に行列はダメーク仏塔の横を通り大テント張りの会場へ到着した。祭典はまづ大菩提會のアリシンハ事務総長の開会宣言をはじめ、シユリニバサ長老比丘の導師で全員起立の上で、三婦五戒がパーリ語で唱えられ、大菩提運校生徒による讃仏歌ののち、印度大菩提會々々長シツキム王ナムギヤル殿下の挨拶があり、マララセーケーラ博士(前WFB会長)の延々四十分にあたる演説、大菩提高校長グルマラクシット氏、UP州知事シユシエータ・クリパラニ女史と日本代表中山師らとの祝辞があり、午後五時後半閉会となった。なお、終って庭園でティーパーティがあり、なごやかな一時をすごして同六時すぎ散会となった

今回第七回大会に出席した日本仏教代表団はその途次にバンコック、ラングーン、コロンボ、デリー、カルカッタ等を訪れ、仏蹟巡拝をなすと共に、バンコックではタイ国文化大臣、WFB本部ブーン会長、タイ僧伽法王、ラングーンでビルマ仏教会、日本大使、コロンボでバンダラナイケ首相(当時)、WFBセイロンセンター、デリーで大菩提會、日本大使、パトナで日印文化協会、カルカッタで日本総領事、印度大菩提會本部等を正式訪問し、夫々レセプション、懇談会等に出席し大いなる成果をあげた。なお香港では香港仏教会、中国で中国仏教会等も訪れ夫々友好親善を深め、十二月十

神奈川県仏教徒大会

麻布事務総長が出席

(訪印事務局長黒田白純)

日午後十時五十分羽田着のタイ航空機で全員無事帰着した。なお一行中石上靖子氏は途中で健康を害され単身帰国せざるを得なかった事は行を共にした我々にとって甚だ残念なことであった。

去る十二月七日一時より鎌倉市竜口寺客殿に於て僧俗二百三十名の参加者を得て盛大に開催された。祝辞として全日本仏教会麻布事務総長立たれ「オリンピック大会」を引例して仏教徒としての反省並びに覚悟を詳細に述べ、こうした世紀のオリンピック大会終了の直後、神奈川県仏教徒大会を企画、実施、かくも大多数の参加を得て誠に喜ばしいと述べられ、続いて全仏常務理事、山本杉氏の祝辞があり、続いて、神田寺主管理友松円諦師、元全仏国際局長石川存静師の記念講演があり盛会裡に午後五時散会した。

亦同月十一日午後一時より、小田原市早川の久翁寺、鈴木敏範県仏常務理事自坊に於て神奈川県仏教徒大会開催を顧みての反省会とも名付けられる県仏常務理事会を開催され、特に全仏よりの出席を希望され各局長部長の都合悪しき為小瀬川、古宇田の両主事が出席。

献金者感謝録 (第三回分)

- 75 金一万円也 小宮 勝憲殿
- 76 金一万円也 久保楚太清殿
- 77 金一万円也 小峰 頼典殿

真言・天台宗仏具製作

田中伊雅仏具店

京都市万寿寺仏具屋町角  
 電話(35)二五八四・五七六〇  
 四六三〇

真理運動本部  
 宗教法人神田寺

- 主 管 友 松 円 諦
- 神田寺幼 友 松 諦 道
- 稚園々長
- 千代田区外神田三丁目四ノ十五  
 電話 八八六八・三三〇五  
 八八五七・八八四二番

- 78 金一万円也 渡辺 泰経殿
  - 79 金一万円也 熊野 竜夫殿
  - 80 金一万円也 近藤 英雄殿
  - 81 金一万円也 土方 保道殿
  - 82 金一万円也 河原 晨晴殿
  - 83 金一万円也 乙部 融朗殿
  - 84 金貳万円也 四天王寺学園殿
  - 85 金五千元也 栗本 俊道殿
  - 86 金貳万円也 村沢義二郎殿
  - 87 金一万円也 石上 靖子殿
  - 88 金五万円也 鹿 苑 寺殿
  - 89 金一万円也 仁 和 寺殿
  - 90 金一万円也 中野 東英殿
  - 91 金五万円也 最 乘 寺殿
  - 92 金五万円也 永 平 寺殿
  - 93 金五万円也 總 持 寺殿
- (11頁五段下へつづく)

現代宗教新聞社

茶華道時報社

社長 秋庭政吉

政界往来社顧問

本社 大阪市城東区古市北通り 一丁目四三  
 電話大阪(94)一七二六番

伏見支局 京都市伏見区西栞屋 町一〇三五  
 電話京都(30)三二四一番  
 奈良支局 橿原市曾我町  
 電話橿原 二九四四番

朝に札拝



夕に感謝

昔も今も 京仏壇 合掌壇  
 新時代の 念珠・香具

若林

京都市七条新町東入 電37-0124-3131-2



文化専門委員会開く

文化専門委員会は、

十月三十日後一時より、また十二月四日後一時より

全仏事務総局にて開催された。

文化専門委員会は定例として毎月一・回開催するを原則としており

りしも、その機を見ずに久し振りに右の通り開催した。諮問議題は

山積してあるのであるが、いわゆる文化が担当する諸問題は中々一朝一夕にして結論を見ると云うが

如き性格を持たざる為、唯本年全日本仏教徒大会に於て採択された

諸議題の中文化局担当の議案、第一部会扱いの第一号、第九号、第十一号、第十六号、第二十三号、第十五議案、第二部会扱いの第十八号議案の一を加え六議案に対し中心的に審議されたが、之れ等は先に申しのべた通り次の諸題に加味されること

一、仏教徒憲章、新仏教徒読本、仏教徒実践要項の制定について。

之れは過去、仏教東漸七十年記念会時代、之れらの制定の急を識り、その要項案が制定されており之れを中心(原案)として制定方が決定した。

これについては此の案も既に過去三年の日時をけみし、現在並びに将来に於て果して可なるものなりや否やに重点をおきたい。

それには仏教学者、仏教学識者、経験者、僧侶、信徒及びその他の仏教徒が疑義の発生せざるものとせねばならぬ、これを目的として充分研究する。

二、マスコミ審議機関設置について

今日ラジオ、テレビ、出版物等

について偶々お互い仏教徒として見るに堪えない且又聞くに堪えない放送並びに書物のあるを知る時特に吾々仏教徒として、之れが機関設置の実務を必要とするが故に三、現代思想問題の指導理念の作成

現代非行青少年の激化問題は何れの会合に於ても話題になる事であるが、特に之れは青少年のみに限るものではない、一般女子、婦人の飯酒の増加、一般老壮年の気分放逸の過度、等を数え上げるなら、社会全般個人の開放程度の現在は誠に、全員が非行化されたと思さねばならぬ、

之れが是正は根本理念である現代社会人全般の思想理念の確保でなくてはならない。

「神ながら」一本の時代が我が国の思想界に誠に長き年代を保持し得た結果とは云え、戦後、自由主義思想から、マルクス・レーニン主義思想の混頓たる時代も之の辺にも整理された。日本個々の思想を持つべきとして。

四、日本仏教文化会議員の議員増加運動について。

去る五月創立総会はその趣旨に則て着々その運動の展開を実施しているが、

(イ) 日本仏教文化会議報の第一号が十二月一日付にて発行

(ロ) 本年度仏教文化会議各地開催の統一議題仏教と道徳の概要を一つとして作成配布完了、

これらについて更に一層手を加えて徹底したものになすこと、をも付け加えた。

駒沢大児童教育部が派遣

第四回 沖繩親善巡回班

駒沢大学児童教育部(嶽盛博文

班長)では、来る二月十六日東京出発で沖繩へ向う。

駒大児童教育部では過去三回訪縄しており、沖繩諸島の児童文化の健全な育成のため努力して来ている今回の第四回沖繩親善巡回班の日程は次のとおり。

日程

二月十六日東京発、同十九日沖繩那覇着、同二十日より三月十五日まで沖繩諸島並びに宮古群島、八重山諸島巡回、同十六日那覇帰着、十八日那覇港出発。

十九日より廿五日まで各地報告子ども会、三月廿六日東京着解散

別所弘因 師全仏を退く

岩本昭典

全日本仏教会が発足した昭和二十九年から十年に亘って全仏の庶務、総務、文化の各部長を歴任しておられた別所弘因師(真言宗智山派所屬)は、このほど同師所屬の智山派の財務部長に就任し、十二月十五日付けを以て文化部長辞任が受理された。

なお去る昭和三十八年四月以来組織部長として卓越した手腕を以て、九州及静岡大会を担当し全仏組織強化活動に尽力して来た岩本昭典師(曹洞宗所屬)は、このほど東京駒込吉祥寺副住職に任命されることになり全仏を退くことに決定、十二月十七日付けで受理された。なお新任組織部長には阿部顯瑞師(曹洞宗)、文化部長には近藤隆敬師(智山派)が夫々十二月十八日付けで発令就任した。

お詫び

正月号全仏通信発行が都合で大変遅れましたことを紙上より深くお詫びします。(編集部)

新刊紹介  
インドの

農村に生きる

著者 池田 運

本書は著者が体当りで経験したインド農村における六ヶ年

にわたる貴重な生活記録である。その内容はインドの深い内

面の動きにも触れ、心うたれるものがある。インドに情熱を

もやし、アジアの開発を志す者には貴重な資料となる。

体裁、新書版、二〇〇頁、写真四十枚入り、定価一部二

七〇円送料四十円

(申込先)、東京都新宿区市谷船河原町十一、家の光協会或は最寄りの書店又は農協(送料不要)

月刊 雑誌

「仏教書道」創刊される

現代は書道ブームと言われ、仏家間に於ける書道の関心が非常に高い、仏教系大学の書愛好学生は、今や児童研究部と肩を並べる程の上り、かつての趣味的な平塔婆だけ書ければよいのだという営業の意味でなく、文化的主体性を持った現象となつて現われてきた。

書道界の内実は、日展、毎日展を除いて、大半の団体が書道雑誌を中心に結成され、全国の書道誌発行は三百を越えて、その内容は競書の種類のあるが「墨美」「書品」「近代書道グラフ」「書道」がやや高度内容で書道文化の貢献に努力している、今回発行された「仏教書道」は、編集主幹に、中村素堂氏(大正大学教授)を、事務局局長に林錦堂氏(浄土宗所屬、慶応大学、芝学園講師)をおき、一流メンバーの僧侶書家で構成されおり、その内容は、「玄奘三蔵と集王書聖教序、仏教書道の流れ、お茶室の書、仏教書道入門講座」と多岐に亘り、初歩向き競書もあり、月を追って「仏教界、書道界に知られていない名僧の墨蹟紹介」を特色づける、としてある。仏教だけで仏教がわからず、書道を通して人格形成に努力している青年仏徒の多いこの時代に「仏教書道」の発行は一隅を照らすとも云える。

定価一部二百円

(申込先) 港区芝三田南寺町十

仏教書道社

(例)九〇二一